

静岡県試験研究 10 大トピックス（畜産技術研究所中小家畜研究センター）

<p>タイトル</p>	<p>「フジキンカ」を長期に安定供給する交配手法を確立</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>フジキンカ長期維持手法の確立 平成 24～26 年度</p>
<p>所 属</p>	<p>畜産技術研究所 中小家畜研究センター</p>	<p>補職名 研究者名 問合せ先</p>	<p>研究員 高橋奈津美 0537-35-2291</p>
<p>研 究 概 要</p>	<p>【背景・ねらい】 当センターで 2007 年度に開発したフジキンカは、希少な「金華豚」とデュロック種^{※1}を交配した豚で、肉のやわらかさと口どけの良い甘い脂が特長である。しかし、交配するデュロック種に「フジロック」のみを使用してきたため近交が進み、近交退化^{※2}が予想される。そこで、フジキンカの血縁上昇を抑える交配手法の確立に取り組んだ。</p> <p>【成果の内容・特徴】 1 フジロックとは異なる他系統デュロック種 3 種（Da、Db、Dc）をそれぞれ父に持つフジキンカ原々種豚^{※3}を作出した（図 1）。この原々種豚の近交係数^{※4}は 0 % となるため、計算上の耐用年数が約 10 年延長した。 2 作出した原々種豚の肉質を調査し、フジロックから作出した原々種豚（＝従来のフジキンカ原々種豚）と比較したところ、やわらかさ、ジューシーさ、さしはいずれも劣らなかった（表 1）。また食べて分かる違いがあるか調べたところ、交配豚の違いによる差は認められなかった（図 2）。したがって、フジロック以外のデュロック種を交配しても、従来のフジキンカに劣らない豚肉を生産できることが確認された。</p> <p>【成果の活用・留意点】 1 作出した原種豚および種豚は静岡県フジキンカ普及推進協議会を通じて生産農家へ供給する。 2 母豚育成期における飼養管理マニュアルを改善し、静岡県フジキンカ普及推進協議会を通じて生産農家へ配布するとともに、JA等関係機関による指導に利用する。 3 肉豚世代における発育性、枝肉成績および肉質の調査は未実施である。</p> <p>※1 デュロック種：豚の 1 品種。アメリカ原産で赤褐色の毛色を持つ。 質の良い肉がたくさん取れる。 ※2 近 交 退 化：奇形が出やすくなったり、繁殖成績が低下したりすること ※3 原 々 種 豚：肉になる豚から見て曾祖父母世代の豚 ※4 近 交 係 数：近親交配の度合いを示す値。</p>		

様式 2

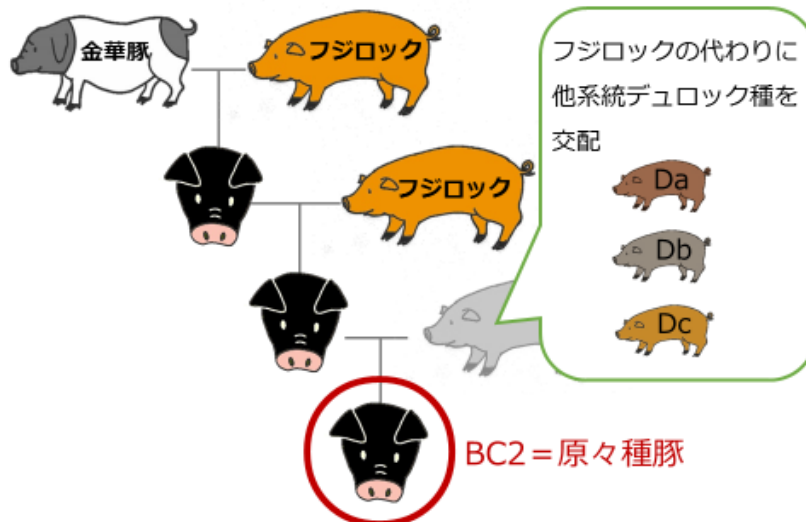


図 1 他系統デュロック種を父に持つ3種の原々種豚（BC2）のつくり方

表 1 交配豚別にみた原々種豚の肉質調査結果

	Da(n=30)		Db(n=15)		Dc(n=15)		フジロック(n=10)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
シェアバリュー(lb/cm ²)	7.1 ±	2.7	6.3 ±	1.3	8.2 ±	2.7	6.2 ±	1.5
筋肉内水分含量(%)	71.7 ±	1.8	71.9 ±	1.2	71.4 ±	1.3	72.0 ±	0.6
クッキングロス(%)	25.6 ±	3.0	26.4 ±	1.8	26.8 ±	1.4	26.8 ±	1.4
筋肉内脂肪含量(%)	4.0 ±	1.4 ab	4.2 ±	1.8 ab	4.5 ±	1.2 a	3.0 ±	0.9 b

異符号間に有意差あり(p < 0.05)

- ・ シェアバリュー：肉をちぎるために必要な力。値が大きいほど固い。
- ・ 筋肉内水分含量：ジューシーさと関連。
- ・ クッキングロス：加熱時に流出する水分量。値が大きいほどジューシーさが失われる。
- ・ 筋肉内脂肪含量：いわゆる「さし」。値が大きいほどさしが多い。

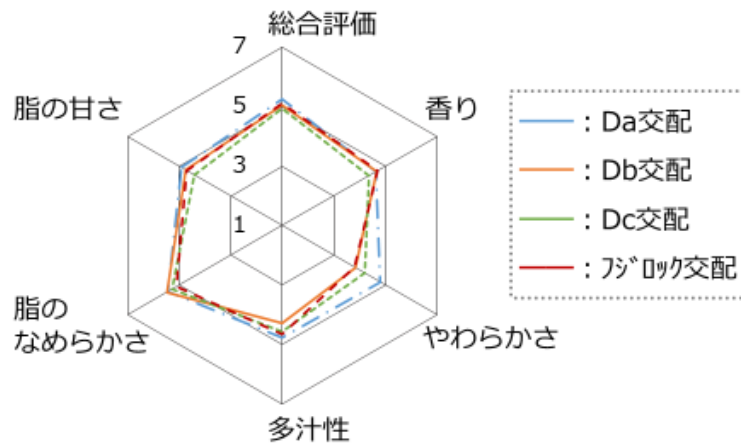


図 2 交配豚別にみた食べたときの評価（パネリスト 28 名）

1～7の7段階評価。数字が大きいほど評価が高い。